

貯蓄・負債現在高階級別の収支

1 二人以上の世帯の状況

消費支出は貯蓄現在高が多くなるほど多い

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に1世帯当たり1か月間の消費支出をみると、貯蓄現在高が多くなるに従って消費支出も多くなっている。

費目別に消費支出に占める割合をみると、貯蓄現在高が多くなるに従って「教養娯楽」及び「その他の消費支出」はおおむね高くなっているが、「食料」及び「光熱・水道」はおおむね低くなっている(図15、表15)。

図15 貯蓄現在高階級別消費支出及び費目別構成比(二人以上の世帯) - 平成20年 -

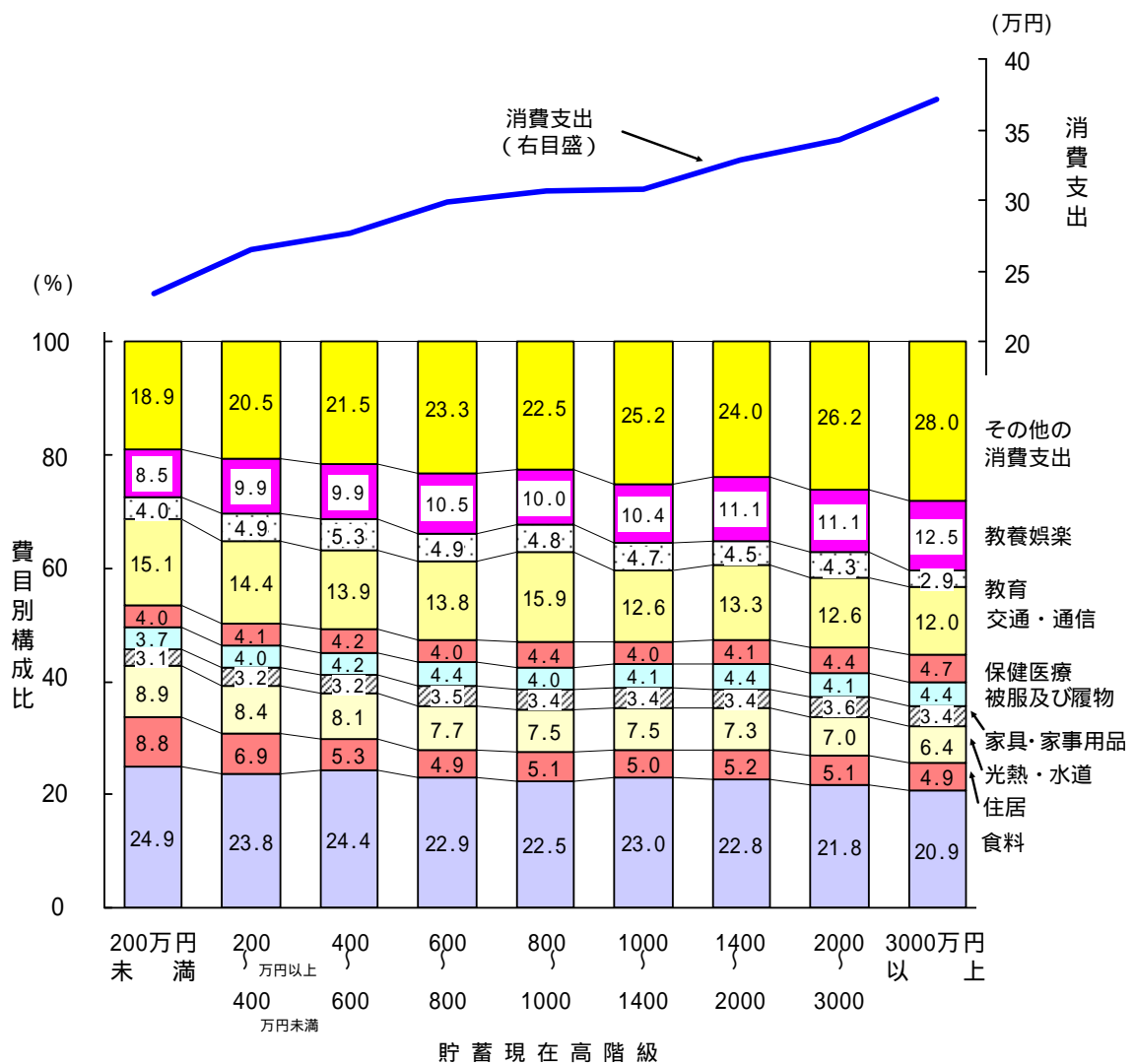


表15 貯蓄現在高階級別消費支出及び費目別構成比（二人以上の世帯） - 平成20年 -

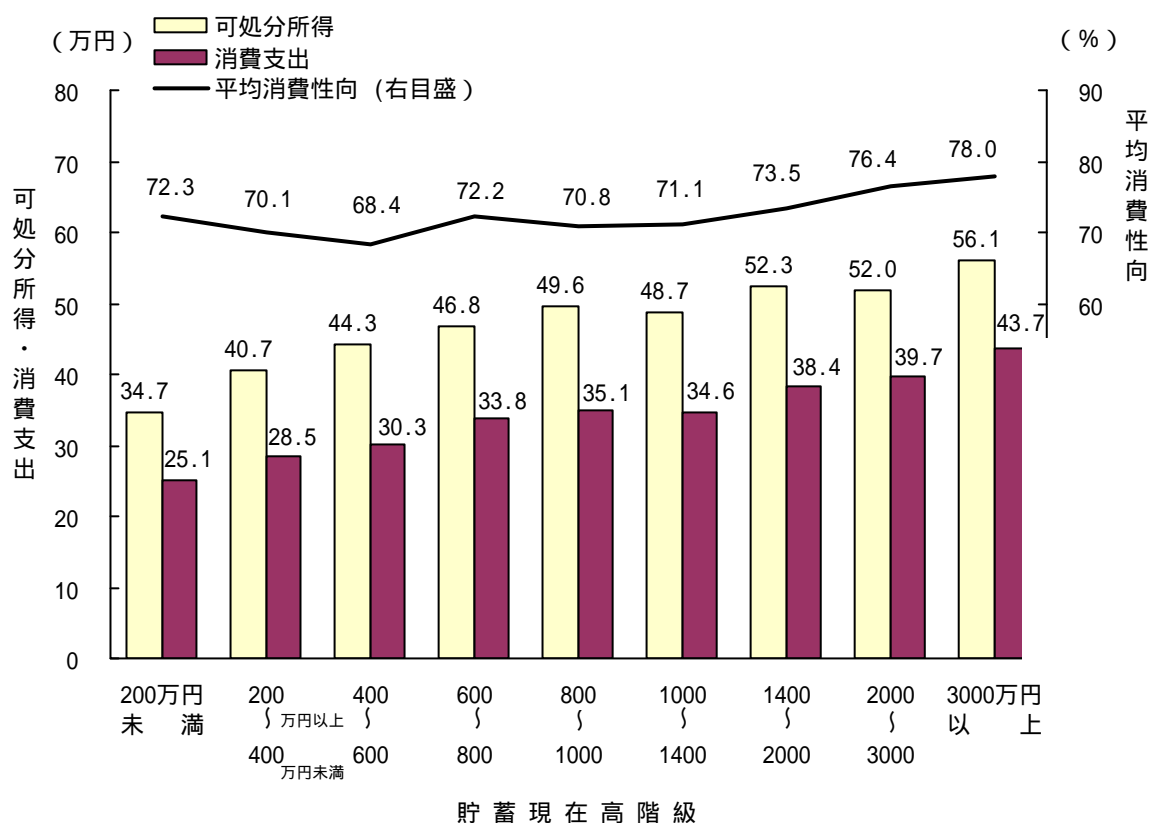
項 目	平 均	200万円 未 満	200 万円以上 ~ 400 万円未満	400 ~ 600	600 ~ 800	800 ~ 1000	1000 ~ 1400	1400 ~ 2000	2000 ~ 3000	3000 万 円 以 上	
世帯主の年齢（歳）	55.7	48.7	49.1	51.7	54.3	54.9	56.7	58.2	60.6	63.7	
持 家 率（%）	81.3	58.1	70.9	79.5	82.7	83.8	85.6	88.8	91.3	95.4	
有 業 人 員（人）	1.39	1.50	1.49	1.43	1.42	1.40	1.38	1.37	1.33	1.19	
					金 額（円）						
消 費 支 出	296932	234076	264892	277265	298801	306328	308597	328760	342814	371898	
食 料	69001	58212	62973	67639	68368	68854	70865	74850	74748	77607	
住 居	16897	20690	18303	14720	14727	15496	15509	17172	17360	18125	
光 熱・水道	22762	20925	22226	22408	23108	23042	23061	23870	23847	23963	
家具・家事用品	9984	7340	8602	8925	10496	10478	10494	11189	12217	12547	
被 服 及 び 履 物	12523	8590	10530	11514	13158	12294	12722	14512	14196	16442	
保 健 医 療	12649	9306	10812	11558	11837	13443	12381	13518	14913	17577	
交 通・通 信	39147	35347	38043	38484	41329	48577	38868	43618	43118	44530	
教 育	12727	9424	12902	14767	14587	14797	14626	14742	14656	10653	
教 養 娯 楽	31372	19912	26127	27541	31458	30487	32211	36514	38102	46451	
その他の消費支出	69869	44331	54372	59710	69733	68859	77860	78775	89656	104003	
					構 成 比（%）						
消 費 支 出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
食 料	23.2	24.9	23.8	24.4	22.9	22.5	23.0	22.8	21.8	20.9	
住 居	5.7	8.8	6.9	5.3	4.9	5.1	5.0	5.2	5.1	4.9	
光 熱・水道	7.7	8.9	8.4	8.1	7.7	7.5	7.5	7.3	7.0	6.4	
家具・家事用品	3.4	3.1	3.2	3.2	3.5	3.4	3.4	3.4	3.6	3.4	
被 服 及 び 履 物	4.2	3.7	4.0	4.2	4.4	4.0	4.1	4.4	4.1	4.4	
保 健 医 療	4.3	4.0	4.1	4.2	4.0	4.4	4.0	4.1	4.4	4.7	
交 通・通 信	13.2	15.1	14.4	13.9	13.8	15.9	12.6	13.3	12.6	12.0	
教 育	4.3	4.0	4.9	5.3	4.9	4.8	4.7	4.5	4.3	2.9	
教 養 娯 楽	10.6	8.5	9.9	9.9	10.5	10.0	10.4	11.1	11.1	12.5	
その他の消費支出	23.5	18.9	20.5	21.5	23.3	22.5	25.2	24.0	26.2	28.0	

2 勤労者世帯の状況

(1) 平均消費性向は貯蓄現在高が多い世帯で高い傾向がうかがえる

二人以上の世帯のうち勤労者世帯について貯蓄現在高階級別に1世帯当たり1か月間の収支をみると、消費支出及び可処分所得共に貯蓄現在高が多くなるに従っておおむね多くなっている。平均消費性向（可処分所得に対する消費支出の割合）をみると、貯蓄現在高1000万円未満の世帯では貯蓄現在高による大きな差はみられない。一方、貯蓄現在高1000万円以上の世帯では、貯蓄現在高が多いほど平均消費性向が高くなる傾向がうかがえる（図16）。

図16 貯蓄現在高階級別可処分所得及び消費支出（二人以上の世帯のうち勤労者世帯） - 平成20年 -



注1) 可処分所得とは、実収入から税金、社会保険料などの非消費支出を差し引いた額で、いわゆる手取り収入のことである。

注2) 勤労者世帯の平均消費性向（年平均）は73.4%

(2) 平均消費性向は負債現在高が多い世帯で低い傾向がうかがえる

勤労者世帯のうち負債を保有している世帯について負債現在高階級別に1世帯当たり1か月間の収支をみると、負債現在高が多い階級ほど可処分所得が多い一方、可処分所得が多くなっても消費支出は多くない。したがって、負債現在高が多い階級ほど平均消費性向が低くなっている。

また、住宅ローン返済額をみると、負債現在高が多い階級ほど多くなっている(図17)。

図17 負債現在高階級別可処分所得及び消費支出

(二人以上の世帯のうち負債保有勤労者世帯) - 平成20年 -

